茨木市主催
令和6年度
「つどい、つながる文化の会議」 活動内容

「つどい、つながる文化の会議」とは？

文化的コモンズの形成に向けたコーディネーターの育成を目的とした市民参加型の「つどい、つながる文化の会議」を令和6年度に全5回実施しました。この活動は、茨木市文化振興ビジョン（第2期）を推進すべく、参加者同士や文化芸術団体との新たな繋がりを創出し、文化芸術を通じて色々な人や活動をつなげていくことをめざした初年度の取組みとなります。

この活動は次年度以降も継続予定です。令和７年度の内容と募集状況については、茨木市文化振興課のHPをご参照ください。

実施概要（全5回）

コンセプト：アートカフェをつくろう！

①令和6年12月1日（日） 16:00～18:00
「対話」のコツを知る、未来を語る
会場：おにクル内会議室

②令和6年12月14日（土） 14:30～16:30
アートな取組みを視察、気づきを得る
会場：吹田市文化会館メイシアター・SUITA×ART（すいたあと）

③令和7年1月25日（土） 14:00～16:00
「どんな場＝アートカフェ」にしよう？
会場：おにクル内ゴウダホールホワイエ

④令和7年2月15日（土） 14:00～16:00
絵本（コンセプトブック）を作る
会場：おにクル内ゴウダホールホワイエ

⑤令和7年3月8日（土） 14:00～16:00
「アートカフェ」を知ってもらう
会場：おにクル内オープンギャラリー

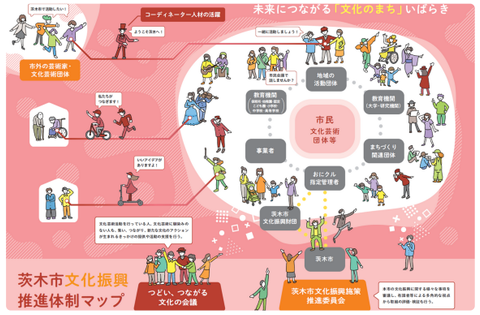
令和6年度の募集チラシ

18歳以上、茨木市在住・在勤・在学の約20名の方が参加してくれました。

「対話」のコツを知る、未来を語る

まず初めに、参加者に向けて活動の目的「文化芸術をきっかけに、誰ひとり取り残さない社会をつくる。他の団体や他者と積極的につながり、つなげる役割を担う」ための活動であること、この活動と茨木市文化振興ビジョン（第2期）とのつながりについて共有しました。

その後、アートマネジメントを専門とし、市民主導のアートプロジェクトに携わっている藤野一夫教授（芸術文化観光専門職大学）より、市民とアートをつなぐ役割の重要性や他市の事例を紹介していただき、後半は、グループに分かれて、自分自身がワクワクすることや茨木市の良いところについて語り合いました。文化芸術をきっかけにどんな取組みに発展していくのか、気持ちが高まる初回となりました。



茨木市文化振興推進体制マップ

当日の様子

アートな取組みを視察、気づきを得る

2回目は、吹田市文化会館メイシアター・SUITA×ART（すいたあと）へ訪問しました。吹田市の次世代を担うアーティストの活動の場として令和6年4月に誕生したSUITA×ARTについて、吹田市文化振興事業団の方から、取組みや運営のお話を伺いました。

当日は、楽器を持ち寄り自由に子供たちが演奏に参加できる公演を視察し「年齢や境遇に関わらず様々な人が参加できるイベントをつくりたい」などアイディアがたくさん湧いてきて、活発に意見交換することができました。

当日の様子

SUITA×ART外観

裏面もご覧ください

どんな場にしよう？絵本（コンセプトブック）作り

3～4回目では、この活動の場を「どのような場にしたいか？」キーワードを決めるワークショップを実施しました。決まった3つのキーワードをもとに、この活動の目的を伝える絵本（コンセプトブック）をつくり、5回目のお披露目会に向けて準備を進めました。絵本のストーリーを考える「企画部」、絵を描く「デザイン部」、この活動自体の広報を考える「ブランディング部」、5回目のお披露目会をつくる「イベント部」に分かれ、それぞれ進めていきました。

参加者たちが愛着をもって、この活動に取り組めるよう名称も決め「ごちゃの間ファミリー」が誕生しました。ごちゃっと混ざり合いながらお茶の間のように、居心地が良く自由に出入りができる場を目指し、名づけています。

絵本のあらすじは、引っ込み思案の作品と不器用な作家さんが、多くの人と出会い、作家さん本人も気づかなかった作品の魅力が、「つながり」によってかがやく物語です。

キーワード

参加者全員で策定。
順番をあえて決めず、
円形のデザインに。

アイコン

絵本で登場するコーディネーターが被っているアンテナ帽子をちゃぶ台の上に。

オリジナル絵本

アイディアの集約や
構成など参加者主体で
作成！

noteにて活動を紹介

この取組みを知ってもらうために、活動の経緯や目的をメディアプラットフォームnoteにて記録しています。参加者にも記事を書いてもらう取組みなども実施しました。

ご関心をお寄せいただいた方は、ぜひ活動の詳細をご覧ください。

https://note.com/ibaraki_bunka

「アートカフェ」を知ってもらう

「みんなでつくろう！絵本と音楽、つどいの場」と題し、おにクル内オープンギャラリーで、この活動を知ってもらうお披露目会を実施しました。告知から企画、当日の運営まで、参加者で分担し、無事終えることができました。イベントを一から創り上げることで、参加者同士の一体感や達成感を得ることができました。それぞれの得意なことや、興味があることを、参加者同士が引き出し合いながら実施しました。

[実施内容]

①オリジナル絵本による音楽付き朗読会
「想像しながら聴いてみよう」

②ワークショップ
「絵本のラストページを自分で描いてみよう」

③アートマップ「茨木の素敵な場所を描いてみよう」

当日の様子

約200名が参加されました。

「自分が自分らしくいられる場所だった」参加者の声多数

今回の取組みを通して、
参加者の声を紹介します（一部抜粋）

「今までアートに思入れはあったが、アートを通じた活動に参加する機会が少なかったので、**アートに関心がある方や行動を起こしたい方と話す機会を得られてよかった**」

「新たな出会いがあり**茨木市に居場所が見つかった気分**になった」

「みんな自分の意見を出しつつ、**周りの意見も決して否定せずに、話し合いを進めていた**」

「自分ができることをアピールするのが苦手だったが、皆様に後押しいただいたこともあり、**できることでチームの役に立つ経験ができ自信になった**」

主催：茨木市文化振興課（TEL：072-620-1810　Email：bunka_s@city.ibaraki.lg.jp）　企画・運営：サントリーパブリシティサービス株式会社